



世界の中のわたし

広島県福山市立霞小学校 担当教科：3年担任

友田 真

◆実践教科：総合的な学習 ◆時間数：7時間 ◆対象学年：小学3年生 ◆対象人数：45名

カリキュラム

◆実践の目的

- ・日頃の生活を見つめ直し、世界のために自分ができることを見つけることができる。
- ・日本とマラウイの文化の違いを知り、自分達とは違う文化・社会を尊重する気持ちを持つことができる。
- ・マラウイを通して、世界へ目を向け様々な角度から物事を考えていくことができる。

ココがすばらしい!

小学校の3年生にとつての国際理解教育が素直な生き方学習につながっている。

マラウイを通して、自分たちの生活をふり返る授業実践になっている。また、児童自身がいま自分たちにできることは何か考え、当番活動、係活動を頑張ろうという気持ちにつながっている。

授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	マラウイに友だち? (マラウイ現地研修前に実施)	・平和を願って、マラウイの子どもたちに伝えたい事を考える ・鶴を折って、マラウイの子どもたちに伝えたいメッセージを書き込む	・マラウイについての簡単な概要
2	できたよ! 友だち	・子どもたちが作った鶴をプレゼントした様子を伝える ・マラウイからのお礼のメッセージを伝える	・鶴をプレゼントしているときの写真
3	こんなに大変とは・・・	・水を飲んだり使ったりするために、どの位時間や労力が必要か知ると共に、大切にしていることを知る	・パワーポイント ・ペットボトル ・バケツ
4	これ何しているんだろう?	・3枚の写真から、何をしているところか考え、日本とマラウイの文化の相違点を考える	・パワーポイント
5	あなたの将来の夢は何ですか?	・マラウイと子どもたちに行ったアンケートの結果から、将来の夢や一番大切なものなどがなぜ違うか考え、双方の環境の違いを理解する	・パワーポイント
6	何さいまで生きられる?	・平均寿命の違いなどから、命の尊さについて考える ・エイズや伝染病などについて知る	・パワーポイント ・マラウイで買った切手
7	これならばよく・わたしにもできるぞ!!	・マラウイについて学んだことを活かして、小学3年生の今の自分が、人のため世界のためにできることを考え、自分にできることを実行しようとする態度を養う	・パワーポイント ・ワークシート

1 時限目(事前学習) マラウイに友だち?

まず子どもたちに、夏休み私が「マラウイ」という国に勉強に行くことになったことを伝え、マラウイがどこか考えさせた。子ども達は、アフリカは知っているがマラウイは聞いた事もないので唖然としていた。

そこで、アフリカのイメージについて考えさせた。

最後に、「出会ったこともなく、話したこともないマラウイの小学生に、みんなのことを知ってもらいたいけどどうしたらよい?」と尋ねると、子ども達は、「手紙を書きたい。でも、日本語だと読めないかな。」「なら鶴を折ろうよ。」などと意見を出し、一緒に平和な世界をつくろうという想いを込めて鶴を折った。

児童の反応

- どんな人が、ぼくが折った鶴を受け取るんだろう。
- マラウイに私の友達がたくさんできるとうれしいから、たくさん鶴を折るよ。
- 分からないかもしれないけど、鶴に僕の名前とメッセージを書いておくよ。先生、読んであげてね。

〈所感〉

子ども達は、行ったことも見たこともない国の人に、自分の折った鶴やメッセージが届くということで、強い興味を抱いていた。そのため、マラウイについても知りたいという知的な欲求を多くの子が持っていた。

また、「どんな子に届いたか、写真を撮ってきてね。」などと私だけが行くのではなく、子どもの想いと一緒にマラウイに持って行くことを伝えた。

2 時限目(事後指導) できたよ! 友だち

まず、子どもたちが折ってくれた鶴をマラウイの小学生へ届けている写真を見せながら、そのときの様子を解説した。マラウイの子が、何度も鶴に書いているメッセージと名前を読んでくれと私のところに来て、鶴を折ってくれたみんなの名前を笑顔で何度も呼んでいたことを伝えた。子ども達は行ったことも話したこともないマラウイに自分の想いが届き、友だちができたことをとても喜んでいました。

次に、マラウイの国について、写真を見せながら簡単に解説をした。衣食住どれをとっても、日本と違うことに驚いていた。

児童の反応

- 写真の中に、私が折った鶴を持っている人がいてびっくりしたよ。
- 先生から僕の名前を何度も言ってくれていたと聞いて、すごくうれしかったよ。
- 大切にしてくれるといいな。
- 行った事もない遠い国に友だちができたなんて、なんか不思議だけどうれしいな。

〈所感〉

鶴を折っていくとマラウイの子ども達はとても喜んでくれた。鶴をもらうために大行列を作り、もらうと作ってくれた人の名前を、何度も繰り返し言っていた。その姿を見て私もうれしかったし、何よりその様子を知った私が担当している学年の子ども達は大喜びだった。

今後マラウイについて学んでいくために、子どもたちの気持ちが「友だちがいる国のことを知りたい」、「先生はどんな国に行ったのだろう」という興味・関心につながり、単元の導入としても効果的だったように思う。



鶴を渡している様子



渡した鶴と一緒に記念写真

3時限目 | こんなに大変とは・・・

まず、女の子三人が頭の上に何を載せて歩いているかクイズを出した。子どもたちの答えは、バケツ・木の実・子ども・動物など様々であった。バケツを頭に載せて歩いている写真を見せながら、家から2km以上離れた井戸まで歩いて水を汲みに行っていることを説明した。子どもの大きな仕事の一つに水汲みがあり、毎日学校に行く前や帰ってから、さらには学校に行かないで家族が生きていくために水汲みをしている子がいることを話すと、驚いていた。また、写真のようにバケツに水を10ℓ入れて、頭に載せて歩いてみることを体験させた。10m歩く事を目指して行っただが、一歩も歩くことができず、バランスを崩した。

次に、日本では一人あたり1日何ℓの水を利用しているか予想させ、答えを話した。マラウイについても同じように考えさせた。日本は約307ℓ、マラウイは約20ℓである。

そして、マラウイの水の利用の仕方について、考えた。食事をする時、水差しのようなもので少しずつ水を注ぎ、少ない水で多くの人が手を洗う。実際にやってみるとたった1.5ℓで45人が手を洗うことができた。

最後に、幼稚園で手を洗った後の水もためて、花に水をやりたり掃除をしたりするための水として再利用している写真を見せ、自分達の水の使い方について考えさせた。

児童の反応

- これまで蛇口をあけるとたくさん水が出てきて、何も思わず使ったり出っぴなしにしたりしていたけど、マラウイでは少ない水を大切に使用しているの、私もマラウイの人たちのように大切に使用していきたい。
- マラウイでは、10ℓの水を手にするために1時間も歩かないといけないことを初めて知りました。毎日何回も繰り返し水を汲みに行くと思うと大変だと思います。
- 少ない水で、あんなにたくさん人の手をきれいにできるなんて知りませんでした。これまで、一人で1.5ℓくらいは手を洗うのに使っていたと思います。

保護者から

- マラウイの水の使い方の勉強を学校ですべてきて、家でも勉強したことを話してくれました。家で少しでも水が出っぴなしになっている音が聞こえると、走ってきて水を止め、そして大切に使うように私が怒られています。マラウイの勉強から自分達の生活を見つめなおしてくれています。

〈所感〉

子ども達は、まずは日本とマラウイの水を使う量がどうして違うのかということに疑問を抱いていた。実際にバケツを頭に載せて歩いたり、少ない水で多くの人が手を洗えることなどを体験したりする中で、実は日本人は、水の無駄遣いをしているのではないかといいことに気付いていった。そして、自分の生活を見つめ直す機会となった。

ただ、マラウイについて知るだけではなく、自分の生活について考え、見つめ直すということができたことはよかった。今回のテーマが、「水」という身近なものであり、無くてはならないもののため、子どもたちが考えやすいテーマだった。



頭に何を載せているでしょう



井戸での水汲みの様子



幼稚園での水を使う一場面



頭にバケツを乗せてみて・・・

4時限目 | これ何しているんだろう？

日本とマラウイの文化の違いについて、考えさせるために次のような授業を行った。写真を3枚使い、その写真がどのような場面であるか、写真の中の人はどんなことを考えているかを、子どもたちに考えさせた。

子ども達は、「お化けだ。」「お祭りをして、みんなで楽しんでいるんだ。」などそれぞれが思ったことを発表した。写真が面白いこともあり、子どもたちも楽しみながら考えていた。

そしてこの写真は、マラウイで行われているお葬式の一場面であることを伝えると驚いていた。

最後に、日本とマラウイのお葬式の相違点を考えさせた。見た目など全く違うところも多々あるが、実は人の死への想いや多くの人で亡くなった人を送り出すところなど同じところがあることも発見できた。

また、他の国のお葬式の行い方なども紹介することで、世界には日本と全く違う文化があり、その文化を尊重することが大切であることを考えるきっかけとなった。

児童の反応

(日本と違うところ)

- 服の色が黒ではなく、色々な色がある。
- 怖そうなお化けが出てくる。
- マラウイほど多くの人が、お葬式に参加しない。
- マラウイは、楽しそうにお葬式をしているけど、日本は悲しそうにお葬式をしている。
- 日本は踊ったり歌ったりは、しない。

(日本と同じところ)

- お葬式に人が集まる。
- 多くの人で、お葬式をすること。
- お祭りとかをしているけど、本当は悲しい気持ちでいっぱい。
- 家族を失った人は、つらいこと。



〈所感〉

見た目などについては、日本と大きく違う。そのため、日本とマラウイの文化の違いについての意見が多く出ていた。しかし、違う視点から考えると実は心の部分は同じなのではないかということに子ども達は気付くことができた。一つの見方だけをするのではなく、物事を多様な角度から見つめる事、そして自分とは違う文化などを尊重する心を、子どもたちには持ってほしい。

5時限目 | あなたの将来の夢は何ですか？

マラウイの子ども達に行ったアンケートと同じ内容のアンケートを、私が担当する3年生の子ども達にも行った。同じ質問であっても、答えは全く違う。子ども達の置かれている環境によって、こんなにも違うのかと驚かされるものであった。

例えば、マラウイの子ども達の一番好きな教科は英語。そして将来なりたい夢は、教師や看護師、ドライバーである。英語は、日本のように学校で学ぶたくさんの教科の中の一つという捉え方ではない。英語ができるようになるという事は、将来仕事を得るための大きな武器となり、家族を救うことができる。そのために大切であり、力を入れて取組まないといけないと感じている勉強になっている。

また一番大切なものも、日本では「家族」や「命」、「お金」などである。一方マラウイでは、ほぼ全員の子が、「教育」や「学校」であった。それは、大好きな家族を守るため、養っていくためには、今自分が教育に一生懸命取り組み、立派な仕事を手に入れることが、将来家族を助けることになる。だから今の私には、教育が大切だという考えが基になっている。

マラウイの子ども達は、一つ一つに自分達のビジョンや目的を持って取組んでいることが、アンケートの結果からもよく分かった。

好きな教科		
	マラウイ	霞小学校(3年生)
1位	英語	体育
2位	算数	図工
3位	社会	理科

一番楽しいこと		
	マラウイ	霞小学校(3年生)
1位	ボール遊び	遊ぶこと
2位	読書	学校
3位	ダンス	なわとび

将来の夢		
	マラウイ	霞小学校(3年生)
1位	先生	スポーツ選手
2位	看護師	パティシエ
3位	ドライバー	看護師

一万円もらえたら		
	マラウイ	霞小学校(3年生)
1位	制服	貯金
2位	靴	ゲーム
3位	ノート	家族にあげる

一番大切なもの		
	マラウイ	霞小学校(3年生)
1位	教育	家族
2位	学校	命
3位		友だち

児童の反応

- どうして、日本とマラウイでは将来の夢が違うのかが分かった。
- これまで色々勉強してきたけど、ノートの代わりに手に計算を書いたりしている写真をみせてもらっていてノートがないからお金があると欲しいのだというのが分かった。私達は、ノートを使えるのだから大切に使いていきたいと思った。
- みんなが勉強できるのではないから、マラウイの子どもたちは一生懸命勉強しているということが分かった。私達も仕事を勝ち取っていかないといけないから、しっかり勉強していきたい。

〈所感〉

子ども達自身のことを、教材として取り上げているので、どうして自分達とマラウイの子ども達では考えが違ふのかということを考えていた。

マラウイで子ども達にアンケートすると、一番大切なもので「家族」と答える子はいなかった。

そこで疑問に思い私は、「どうして、一番大切なものに家族ではないの。日本では、多くの子が家族と答えるんだよ。」という、「大好きな家族を守ろうと思っても、しっかり勉強して英語が話せたり、計算できたりしないと将来仕事に就けない。仕事に就けないと、大好きな家族を守ることも自分が食べていくこともできないから、今行っている教育が、何よりも僕にとって大切なんだ。」と答えてくれた。

これは、マラウイで私の心に衝撃的に残った一つであった。

6時限目 何さいまで生きられる？

日本とマラウイの平均寿命を比較して考えさせた。

日本は、男79、歳女86歳と世界最長である。一方でマラウイは、統計により前後あるがおよそ43歳と、日本のおよそ半分であるとともに、これは世界でも最も平均寿命が短い国の一つにあたる。

どうして日本とマラウイでは、こんなにも平均寿命に差があるのかグループで考えさせた。すると、環境や食事、住宅など様々な角度から理由を考えることができた。

子どもたちの意見から出てこなかったが、「エイズ」がマラウイの平均寿命を縮めている要因の1つになっていることを説明するとともに、「エイズ」という病気の恐ろしさについても、子どもたちに考えさせた。

さらに、マラウイの路上で当たり前のように販売されていた棺おけについても話をし、「死」がマラウイでは、日本より身近なものになっていることを知る事ができた。

児童の反応

- エイズという怖い病気があり、それにより多くの子どもや大人が苦しめられていることが、分かった。
- お父さんやお母さんをエイズで亡くし、子どもたちだけで生活していることを知ってびっくりした。
- たくさんの方が、病気などで早く亡くなっているの、自分には何かできないかと思った。

〈所感〉

平均寿命が、日本とマラウイでは大きく異なっている。差が大きいだけに、子ども達は様々な視点から考えることができていた。また、今までの学習から「水が十分にないから」や「水がきれいでないから」、「十分に食べ物が無いから」、「薬がないから」などこれまで学習してきた知識などを活かして考えることができていた。



7 時限目 これならばく・わたしにもできるぞ！！

学習のまとめとして、小学3年生である自分たちにも人のため・地球のためにできることを考えた。

- ①マラウイについての学習を通して一番心に残っていること
- ②マラウイの人たちの生活や子どもたちから学んだこと
- ③同じ地球で苦しい生活を送っている人たちのためにできること

以上について考えていった。

子どもたちは、マラウイの人たちにプレゼントを届けたり、学習を積み重ねたりしてきているので、自分たちも力になりたいという思いを強く持っていた。

児童の反応

- ①マラウイについての学習を通して一番心に残っていること
 - 平均寿命が日本とマラウイでは、大きく違うことが心に残っています。
 - 道路の端に、子どもの棺おけが売られている話を聞いて、びっくりしました。
 - きれいな水を飲めないこともあり、水を飲むことで色々な病気になることがあることが、日本では考えられないことだと思いました。
 - お葬式の行い方が日本と違うことに、びっくりしました。形は違うけど、悲しみながら亡くなった人を送っていくのは、同じだと思いました。だから、みんなでお祭りをしながらお葬式をする方法もいいなあと思いました。
 - アンケートの結果から、同じ小学生でも考えていることが違うことに驚きました。
- ②マラウイの人たちの生活や子どもたちから学んだこと
 - 私たちは毎日当たり前のように学校に来ているけど、マラウイでは学校に行けずエイズで亡くなる人がいたり、お金がなくて学校に行けない人もいたりするので、毎日学校に行けるのはありがたいと思いました。
 - エイズという恐ろしい病気があることを知りました。
 - エイズにかかっていたりいつ死ぬか分からない状態だったりしても、一生懸命学校に通い勉強している姿は、すごいと思いました。私も、一生懸命勉強していきたいです。
 - お水は、生きていくのに大切なものであることを学びました。
- ③同じ地球で苦しい生活を送っている人たちのためにできること
 - お水をいっぱい使うのではなく、チョロチョロ出すなどして大切に使っていきたいです。
 - 身近にあるものを大切にしていきたいです。
 - まずは、自分が学校でしっかり勉強をしていきたいです。
 - 友だちと仲良くできないのは、戦争の始まりになると勉強したので、まずは友だちを大切にすることから始めていきたい。

3年生の私達にできること・やっていくこと

「近くにいる友だちや家族を大切に、相手を傷つける言葉を使わない。」

〈全体を通しての所感〉

私は、この学習を通して、子どもたちに「マラウイの子どもたちは、かわいそう」、「私は、食べ物などが豊かな日本に生まれてよかった」というような思いを持たせることだけはしたくなかった。

自分自身がそうであったように、マラウイの生活・人々から自分の生活などを見つめなおし改善しようとする気持ちを持たせたかった。また、マラウイや世界という大きなものを見つめながら、実は自分の近くにいる家族や友だちを大切にすることが、世界を守ること・幸せに繋がることに気付いて欲しかった。

言葉では、「人のためになりたい」などと言うことは簡単に言えるが、例え簡単なことでも、何でもないことでも、自分にできることから実行できる人間に育てて欲しいと思っている。